

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

旧年中は当館の活動にひとかたならぬご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当館では昨秋も8度目のクラウドファンディングを実行致しました。第8弾では、主に経年劣化が進む電動移動書架の基板交換費と、明治期から戦前にかけての【歌舞伎プロマイド】約1万枚のデジタルアーカイブ化と保存のための資金を募集しました。9月10日より開始したプロジェクトは、50日間の募集期間で247名の方より290万2千円のご支援を頂き、今年もプロジェクトが無事成立致しました。募集した資金により、【歌舞伎プロマイド】1万枚は、立命館大学アート・リサーチセンターに依頼し、本年中頃よりデジタル撮影を開始し、続いて長期計画でアーカイブ化を進め、最終的には保存容器に収めてより良い環境で保存する予定です。

皆様のご協力とご支援を支えとして、ますます充実した演劇と映画の専門図書館を目指し、これからも資料の保存・活用にスタッフ一同努力してまいります。本年も当館の活動にご理解・ご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

松竹大谷図書館 職員一同

≫≫ お知らせ

■第48回 大谷竹次郎賞 決定！

大谷竹次郎賞は、その年の1月から12月に各劇場の公演において、歌舞伎俳優によって演じられた新作歌舞伎および新作歌舞伎舞踊のなかで優れた脚本に贈られる賞です。

令和元年度 第48回大谷竹次郎賞は、下記の通り決定いたしました。

- 大谷竹次郎賞 三谷幸喜 脚本『月光露針路日本 つきあかりめざすふるさと 風雲児たち』 令和元年6月歌舞伎座上演
丹羽圭子・戸部和久 脚本『風の谷のナウシカ』 令和元年12月新橋演舞場上演
- 奨励賞 竹柴潤一 脚本『本朝白雪姫譚話』 ほんちようしらゆきひめものがたり 令和元年12月歌舞伎座上演

『月光露針路日本 風雲児たち』は、平成18年上演の『決闘！高田馬場』に次ぐ三谷幸喜の二作目の新作歌舞伎です。みなもと太郎の漫画『風雲児たち』を題材にした本作は、それぞれの登場人物が個性豊かに描かれ、原作に新たな趣向を加えた点が高く評価されました。また、『風の谷のナウシカ』は、宮崎駿の漫画『風の谷のナウシカ』全7巻を原作とし、宮崎駿の描いた壮大で複雑な世界観を、歌舞伎の古典的な表現で通し狂言にまとめあげた丹羽圭子・戸部和久両氏のそれぞれの手腕が評価されました。

大谷竹次郎賞の受賞は4年ぶりです。今回は2作品同時受賞となります。

また、歌舞伎の狂言作者である竹柴潤一の処女作『本朝白雪姫譚話』が、グリム童話を優良なエンターテインメントとしての歌舞伎脚本に完成させた事への評価と共に、今後の狂言作者による優れた新作歌舞伎創作への期待を込めて、奨励賞に選ばれました。授賞式は2月上旬に行われる予定です。

■世田谷文学館で『六世中村歌右衛門展 ようこそ歌舞伎の国へ』が開催されます

2020年1月18日(土)より、4月5日(日)まで、芦花公園隣に位置する世田谷文学館において『六世中村歌右衛門展 ようこそ歌舞伎の国へ』が開催されます。世田谷区岡本を終の棲家とした昭和の名女方 歌右衛門の芸と人生を、残された遺品や資料から偲びます。松竹大谷図書館からも、生前歌右衛門が使用した台本や書拔、隈取、趣味として描いた絵画など、ゆかりの品々を出展いたします。会期中は、記念講演会や「歌舞伎座ギャラリー」見学会などのイベントの開催も予定されています。みなさま、どうぞお運びくださいませ。

■開催情報■ 『六世中村歌右衛門展 ようこそ歌舞伎の国へ』

会場:世田谷文学館2階展示室 住所:〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 電話:03-5374-9111/会期:2020年1月18日(土)-4月5日(日) ※展覧会期間中、一部展示替えがございます。/開館時間:10:00-18:00(入館は17:30まで)/休館日:毎週月曜(※ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌平日休館)/入館料:一般=800(640)円、65歳以上、高校・大学生=600(480)円、小・中学生=300(240)円、障害者手帳をお持ちの方=400(320)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※1月24日(金)は65歳以上無料

URL:<https://www.setabun.or.jp/index.html>

≫≫ 第80回所蔵資料展示 「松竹キネマ100周年」展

展示期間:2020年1/10~3/3/於 閲覧室

本年は、松竹キネマが創設されてから100周年を迎える年です。

演劇の興行を手がけていた松竹合名社の白井松次郎と大谷竹次郎の双子の兄弟は、当時は活動写真と呼ばれていた映画が明治末期より大衆の人気を得てきていたことから、今後は映画が娯楽の中心となることを予測していました。そして大正8[1919]年に末弟の白井信太郎らにアメリカ・ユニバーサル社の視察などをさせ、その報告から映画は世界を相手にする一大事業であることを確信し、映画製作を決意しました。大正9[1920]年2月11日、松竹合名社は映画の製作、供給を開始することを内外に発表、松竹キネマ合名社を設立しました。

設立の同年、蒲田の地を購入して撮影所を建設、アメリカから招いたカメラマン、ヘンリー小谷と劇作家の木村錦花が監督した『島の女』を製作し11月に発表、これが最初の松竹キネマ合名社の作品となります。また、劇作家・演出家の小山内薫が校長に就任し4月1日に開校したキネマ俳優学校を経て、11月には小山内薫率いる松竹キネマ研究所が設立され、俳優やスタッフなどの人材を育成します。翌年、松竹キネマ研究所は第1回作品として『路上の靈魂』を発表しました。

松竹キネマは自社製作の映画を上映するために映画館の経営にも進出、直営第一号は大正10[1921]年の西銀座の金春館で、以後浅草帝國館、赤坂帝國館、浅草松竹館や浅草電気館など複数の映画館を経営、輸入洋画上映と松竹キネマ製作映画の上映を各館で行いました。

大正12[1923]年9月1日に発生した関東大震災では蒲田撮影所も被害をうけて映画製作が不可能となったため、スタッフや俳優の大多数は京都の下加茂へ避難し、加茂川畔を切り開いて急ごしらえの撮影所を作りました。これが京都下加茂撮影所の先駆けとなります。翌年1月末には蒲田撮影所への帰還が叶いましたが、時代劇は京都に残り、この地で製作されるようになります。震災から復興した蒲田撮影所では、映像と音声(台詞や音楽、効果音など)が同時に流れる日本初の本格的なトーキー映画『マダムと女房』が製作されるなど、ますます隆盛を極めます。

昭和6[1931]年に建設された羽田飛行場や撮影所近辺に新設された工場の騒音により、トーキーの製作に支障をきたすようになったため、松竹キネマは大船の土地を入手、蒲田の5倍の広さの大船撮影所を建設し、昭和11[1936]年1月大船撮影所へ移転しました。大船からは大ヒットを記録し続々篇まで製作された『愛染かつら』や、京都からは壮大なスケールのセットが話題となった『元禄忠臣蔵』など、数多の名作が生まれます。そして戦後も、『東京物語』、日本初のカラー映画『カルメン故郷に帰る』、長寿シリーズ『男はつらいよ』といった、日本を代表する映画作品が松竹から送り出されているのは、みなさまご存知の通りです。

今回の展示では、松竹キネマ初期から戦前までの様々な資料を取り上げ、その歴史に注目します。

【展示資料一覧】プログラム『島の女』大正9[1920]年(蒲田) 松竹キネマ合名社第1回作品、大正9年12月京都明治座公開時のプログラム/台本『路上の靈魂』大正10[1921]年(松竹キネマ研究所) 松竹キネマ研究所第1回作品/雑誌『蒲田週報』第1号(大正14[1925]年3月1日) 松竹キネマ蒲田撮影所発行の広報誌/雑誌『蒲田』大正15[1926]年2月号付録(部分)「松竹キネマ蒲田撮影所俯瞰図」/チラシ「松竹蒲田撮影所開放大会」紙面に『夏の日の恋』『愛のゆく末』(共に昭和3[1928]年公開)の作品名があるためこの年に催された大会か。当時の撮影所とファンの交流を知ることができる資料/冊子『帝國館ニュース』No.1(昭和4[1929]年3月15日浅草帝國館発行) 外国映画館だった浅草帝國館が新築落成と同時に日本映画の上映館と成った際に発刊された冊子/スチール写真『進軍』昭和5[1930]年(蒲田) 蒲田撮影所10周年記念映画/スチール写真『美人哀愁』昭和6[1931]年(蒲田) 撮影中の小津安二郎監督をとらえたスナップ写真/図書『日本映画傳 映画製作者の記録』城戸四郎著 昭和31[1956]年文藝春秋新社 日本初の本格的なトーキー映画『マダムと女房』昭和6[1931]年(蒲田)の撮影風景の写真を掲載/楽譜『松竹トーキー主題歌 マダムと女房の歌』松竹キネマ超特選楽譜 No.132』昭和6[1931]年5月30日 松竹キネマ楽譜出版社発行/台本『恋の花咲く 伊豆の踊子』昭和8[1933]年(蒲田) 内務省検閲済印入り台本/スチール写真『一本刀土俵入り』昭和9[1934]年(下加茂) 撮影中のスナップ。当時の人気俳優長谷川一夫(後の長谷川一夫)が写る/雑誌『蒲田』昭和10[1935]年11月特別号 蒲田雑誌社発行 この号で「さよなら蒲田特輯」が組まれている/雑誌『オール松竹』昭和11[1936]年2月号 映画世界社発行 タイトル上に「蒲田・改題」とある。雑誌『蒲田』の後継誌/プレスシート『愛染かつら』昭和13[1938]年(大船)/冊子『銀座映画劇場』No.96『残菊物語』昭和14[1939]年(下加茂)の紹介と「松竹大船男優募集」の広告を掲載/プレスシート『元禄忠臣蔵』前篇:昭和16[1941]年(興亜映画)、後篇:昭和17[1942]年(太秦)



台本『路上の靈魂』大正10年
松竹キネマ研究所第1回作品

≫≫資料をご寄贈くださった方々 (敬称略・順不同/2019年10月-11月) ※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、邦楽の友社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、株式会社日本舞踊社、国立劇場、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)、岩波ホール、シナリオ・センター、演劇出版社、キネマ旬報社、おもだか会、文学座、日本映画テレビプロデューサー協会、一般社団法人日本民間放送連盟、シアタークリエ、劇団民藝、新歌舞伎座、銀座 博品館劇場、株式会社ワタナベエンターテインメント、有限会社合同通信社、株式会社カモミール社テアトロ編集部、伝統文化新聞、博多座、榎松大剛、公益社団法人日本照明家協会、株式会社パルコ、国立映画アーカイブ、国立歴史民俗博物館、神奈川県演劇連盟、劇団俳優座、おとなのデジタルTVナビ編集部、デアゴスティーニ・ジャパン、(株)近代映画社、若林さだ吉、中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)、吉田遼人、株式会社東急文化村、はせひろいち(劇団ジャブジャブサーキット)、銀座百店会、東宝株式会社映像事業部、無声映画鑑賞会、劇団青年座、東京都江戸東京博物館、博物館明治村、御園座演劇図書館、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館、人形劇団プーク、秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場、株式会社俳優座劇場、帝國劇場、三越劇場、(公財)関西・大阪21世紀協会上方文化芸能運営委員会、オペラシアターこんにゃく座、株式会社オフィスタカヤ、一般社団法人日本映画製作者連盟、関西学院大学 文化総部 古典芸能研究部OB会、岡部耕大、加藤健一事務所、明治座、丹野達弥、足立区立郷土博物館、泉鏡花記念館、京都精華大学講師 浅野久枝、日本劇場技術者連盟、株式会社ホリプロ、公益財団法人日本近代文学館、玉川大学教育博物館

どうもありがとうございました

▶ **新着資料案内** 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ **松竹系 12月 演劇公演資料** ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『たぬき』	○		○	○
	『村松風二人汐波』				
	『保名』				
	『壇浦兜軍記 阿古屋』	○			
	『神霊矢口渡』	○			
	『本朝白雪姫譚話』	○			
新橋演舞場	『新作歌舞伎 風の谷のナウシカ』	○		○	○
松竹座	『大阪環状線 天王寺駅編』	○		○	○
南座	『信州川中島合戦 輝虎配膳』	○		○	○
	『戻駕色相肩』	○			
	『祇園祭礼信仰記 金閣寺』	○			
	『仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋の場』	○			
	『堀川波の鼓』	○			
	『釣女』	○			
	『新皿屋舗月雨暈 魚屋宗五郎』	○			
	『越後獅子』				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ **他社演劇公演資料 (10-12月)** ■ (順不同)

はらぺこペンギン! 『流星メモリー』中野テアトル BONBON プログラム/温泉ドラゴン 『五稜郭残党伝』サンモールスタジオプログラム/穂の国とよはし芸術劇場 PLAT プロデュース 『荒れ野』ザ・スズナリプログラム/月影番外地 『あれよとサニーは死んだのさ』ザ・スズナリプログラム/『常陸坊海尊』神奈川芸術劇場ホールプログラム/JACROW 『フィクション』下北沢駅前劇場プログラム/M&Oplays プロデュース 『鎌塚氏、舞い散る』本多劇場プログラム/劇団鹿殺し 『傷だらけのカバティ』あうるすぽっとプログラム/花組芝居 『義経千本桜』あうるすぽっとプログラム/燐光群 『憲法くん』座・高円寺1プログラム/フロム・ニューヨーク 『こまかいのの貸し借り』下北沢 OFF・OFF シアタープログラム/加藤健一事務所 『パパ、I LOVE YOU!』本多劇場プログラム/NODA・MAP 『Q』東京芸術劇場プレイハウスプログラム/『ミュージカル ビッグ・フィッシュ』シアタークリエプログラム/『ミュージカル ハムレット』博品館劇場プログラム/『放課後の厨房男子 リターンマッチは恋の味篇』博品館劇場プログラム/劇団民藝 『泰山木の木の下で』三越劇場(日本橋)プログラム、台本/『どん底』新国立劇場小劇場プログラム/『逸青会』金剛能楽堂プログラム/『別会 梅津貴和の会』国立能楽堂プログラム/『あの出来事』新国立劇場小劇場プログラム/『近江源氏先陣館/蝙蝠の安さん』国立劇場大劇場プログラム/『Chaplin KABUKI NIGHT 蝙蝠の安さん』国立劇場大劇場プログラム/『京舞』国立劇場大劇場プログラム/『雅楽 アジアの響き』国立劇場小劇場プログラム/『東西名流舞踊鑑賞会』国立文楽劇場プログラム/『第156回文楽公演』国立文楽劇場プログラム、床本

■ **演劇雑誌** ■

『Confetti』2020年 JANUARY/『DRAMA かながわ』78号/『KENSYO』Vol. 115/『Next Stars ネクストスターズ』Vol. 1/『SePT 倶楽部 information』2019年 8月号, 9月号, 10月号, 11月号/『TICKETS GO!GO!』Vol. 97, Vol. 98/『act guide [アクトガイド]』2019 Season 4/『あぜくら』2019年 12月号/『つどい』51号/『ほうおう』2019年 11月号, 12月号, 2020年 1月号, 2月号/『テアトロ』2019年 12月号臨時増刊号 俳優・タレント養成ガイド 2020年度版/『ラ・アルプ』2019年 12月号, 2020年 1月号/『演劇界』2020年 2月号/『喝采』2020年 3月, 4月/『御園座演劇図書館 Newsletter』Vol. 21/『大向う』令和2年 1月号/『伝統文化新聞』163号/『日本劇作家協会会報 ト書き』63号/『日本劇場技術者連盟誌』No. 9, No. 10/『日本照明家協会誌』2019年 12月号/『日本舞踊』72巻 1月号/『悲劇喜劇』2020年 1月号/『邦楽の友』令和2年 1月号

■ **映画雑誌** ■

『FLIX』2020年 2月号/『NFAJ プログラム』No. 19, No. 20/『SCREEN』2020年 2月号/『TVガイド』2019年 12/6号, 12/13号, 2020年 1/5号/『おとなのデジタルTVナビ』2020年 2月号/『エキブ・ド・シネマ』No. 229/『キネマ旬報』2020年 1月上・下旬合併号/『シナリオ』2020年 2月号/『シナリオ教室』2020年 1月号/『ドラマ』2020年 1月号/『ピクトアップ』2020年 2月号/『ムービー・スター』2020年 2月/『映画テレビ技術』2020年 1月号/『映画時報』2019年 12月号/『映画秘宝』2020年 2月号/『月刊ドロキ・ユキコ』41号/『日経エンタテインメント!』2020年 1月号

■ **映画資料** ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『男はつらいよ お帰り 寅さん』	○	○	○		○
『シネマ 歌舞伎 廓文章 吉田屋』	○		○		

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■ (順不同)

『映画 ひつじのショーン UFO フィーバー!』『その瞬間、僕は泣きたくなかった CINEMA FIGHTERS project』『ターミネーター：ニュー・フェイト』『ゾンビランド：ダブルタップ』『ライフ・イットセルフ 未来に続く物語』『アナと雪の女王 2』『ファイティング・ファミリー』『ルパン三世 THE FIRST』『ジュマンジ ネクスト・レベル』『ひとよ』『HUMAN LOST 人間失格』『ベル・カント とらわれのエリア』『ブライトバーン 恐怖の拡散者』『オーバー・エベレスト 陰謀の氷壁』『屍人荘の殺人』『映画 妖怪学園Y 猫はHEROになれるか』『グレタ GRETA』『カツベン!』

»» 新規登録資料案内 新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書籍 ■ (順不同)

『THEATRE YEAR-BOOK 2019』『<戯曲集>紛争地域から生まれた演劇 10』『KOREAN CINEMA 2018』『映画テレビ技術手帳 2019/2020 年版』『歌舞伎を描いた明治の錦絵』『Face ALL Stars Profile 2017』『天才の背中 三島由紀夫を泣かせ、白洲次郎と食べ歩き、十八代目中村勘三郎と親友だった男の話。』『ニッポンの伝統芸能』『日本文化ビジュアル解体新書』『舞台装置家 浜田右二郎スクラップ』『夢の実現に向かって こんにちはさんと共に歩んだ旅館業人生 四国こんにちは歌舞伎大芝居 35 周年に思う』

松竹大谷図書館の看板が
新装されました

当館の入っている銀座松竹スクエアの看板が新しくなりました！
当館の看板は、映画『男はつらいよ』と歌舞伎『義経千本桜』の台本の写真が目印です。夜になると看板の内側に照明が灯って雰囲気が変わります。お近くにお越しの際はぜひご注目下さい！

左上に当館の看板があります。看板後ろが当館が入っているビルです。



夜になると照明で浮かび上がり、そこはかとなくムーディな雰囲気。



■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

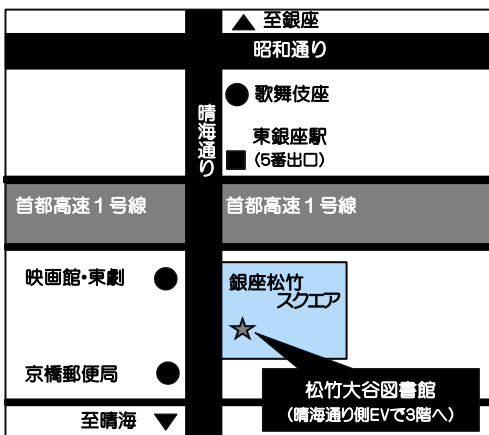
公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。
何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々 (了承を得た方のみ掲載) 2019(令和元)年 12 月にご支援いただきました法人・団体 (50音順・敬称略)

株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
有限会社合同通信社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
松竹ブロードキャスティング株式会社
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます



編集・発行:公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階/TEL 03-5550-1694
公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>
公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>



● 利用案内 ●

【開館時間】平日午前10時～午後5時／【休館日】土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期特別整理期間※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します／【閲覧】館内閲覧のみ／【入館料】無料／【コピーサービス】A4 1枚 白黒 50 円、カラー 150 円・B4 1枚 白黒 100 円、カラー 300 円 量が多い場合は翌開館日渡し、または郵送(送料は申込者負担) 但し、コピー不可の資料もあります

● 資料検索 ●

<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

● 交通案内 ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分